大学等名：○○大学

プログラム名：○○大学応用基礎プログラム

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 プラス申請書

|  |  |
| --- | --- |
| 申請単位 | 応用基礎レベル（大学等単位） |

① 授業内容

|  |
| --- |
| 本プログラムは、「応用基礎レベル」の教育プログラムとして全学部において必須のプログラムとなっている。さらに、本学においてエキスパートレベルの人材育成を目指す「○○プログラム」への学修の橋渡しとなる仕組みを構築している。・分かりやすさについて遠隔授業と対面授業を併用し、受講者がいつでも視聴可能で内容が多岐にわたるビデオ講義を実施している。初学者であっても反復学習が可能となるようe-learning教材を提供している。・・・・学習意欲が高まる内容について課題発表を含むグループ演習、実データを用いて実課題を解決する実践型の演習などを段階的に充実させていくことによりデータサイエンスを学修する意義を実感させ、学習意欲を高めている。・・・・学生の習熟度や専門性を踏まえた学習内容についてTA制度により先輩受講者への質問を可能としている。受講生の興味関心を引き出すため、複数の専門性に関する例に沿ったAI活用技術について学修できる内容となっている。・・・・学生の習熟度や専門性に応じた授業選択について受講生のキャリアデザインや、社会的に求められている専門性に合わせたスキルを選択的に修得することができるよう、分野横断型の選択科目を提供している。・・・・○○について・各項目の文字数の指定はありません。・ページ数は、①、②及び③の全体で３ページ以内としてください。・図や写真を挿入することは可能です。・文字の大きさは、１２ポイント以上を使用してください。・・・ |

② 学生への学習支援

|  |
| --- |
| 本プログラムでは、以下の独自の学習支援を実施している。・学習支援システムの構築について受講生の履修管理、課題提出、小テスト、授業アンケートなどをLMS上で一括して管理し、教員が受講生の理解度・習熟度を的確に把握することによりそれぞれの受講生に応じた適切な指導が可能となっている。・・・・補完的な教育の実施について各回の講義をすべてビデオ講義として配信することにより受講生が習熟度に応じて反復学修することが可能となっている。独自のe-learning教材を提供することにより専門性に合わせて自主的に選択して学修できるよう支援している。・・・・インターンシップ先での実践やＴＡとしての指導について受講生30名あたり1名以上のTAを配置することにより受講生が質問・問題解決しやすい環境を強化している。TA教育としてマニュアルを作成し研修を行うなど、TAの質の保証にも力を入れ支援の充実を図っている。・・・・学修成果の可視化等の導入についてLMS上で管理しているデータからそれぞれの受講生の各種状況を週単位・月単位など評価・分析して視覚的に把握できるツールを活用している。・・・・○○について・・・ |

③ その他の取組（地域連携、産業界との連携、海外の大学等との連携等）

|  |
| --- |
| 本プログラムでは、以下のような外部連携を実施している。・地域連携や産業界との連携について産官学連携型のコンソーシアムを形成し、地域や企業の実データを用いた実課題の解決を目指す共同研究を実施している。社会人向けのリカレント教育として開講しており、企業から受講生の受け入れを行い、企業側から教育内容に関するフィードバックを受けるなど大学側の授業改善にもつながっている。・・・・海外の大学等との連携について○○大学とパートナーシップを結んでおり、海外派遣や英語によるカリキュラムの導入などグローバルに活躍できる人材の育成に取り組んでいる。・・・・○○について・・・ |